



「通信全覧」「続通信全覧」



「咸臨丸風波の図」

「通信全覽」「統通信全覽」

平成二八年八月一七日、外交史料館所蔵の「通信全覽」「統通信全覽」が、文化財保護法（昭和二五年法律第二二四号）第二七条第一項の規定により重要文化財に指定された（官報告示平成二八年八月一七日付文部科学省告示第一一六号）。

幕末の外交関係を知る上で欠くことのできない重要な外交史料集が「通信全覽」と「統通信全覽」である。

「通信全覽」は、開国後の一八五九年（安政六年）と一八六〇年（万延元年）の外交文書を徳川幕府が編集したもので、全部で三二〇巻を数える。

「統通信全覽」は、「通信全覽」の後をうけて、一八六一年（文久元年）から一八六八年（慶応四年）までの編年文書に、修好・貿易などの事項別部門を加えて外務省が編集・分類したものである。一八七一年（明治四年）に一時着手したが、本格的には一八七四年（明治七年）から約一〇年をかけて完成させ、一七八四巻が残っている。

「咸臨丸風波の図」

本絵図は、一八六二年（文久元年）の小笠原島巡見に向かう咸臨丸を描いたものである。連日の時化により厳しい船旅であったことを伝えている。

（「統通信全覽」雑門「小笠原島真景図 父島之部」所収）

右は外交史料館特別展示「幕末へのいざない」で展示した（詳細は本号掲載の同特別展示記事参照）。